

# コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2024年1月20日

Lancet :

新型コロナワクチンをしっかり接種した場合の重症化予防数推計

## 【松崎雑感】

新型コロナワクチンの効果は、接種した人々とそうでない人々との重症化率や死亡率の差で検証されます。

今回のイギリスのデータでも、ワクチン接種が多くの人々の重症化を防ぐという証拠が示されました。

## 新型コロナワクチンをしっかり接種した場合の重症化予防数推計

Gulliford MC, Steves CJ. **Access to COVID-19 vaccination and COVID-19-related hospital admissions and mortality.** *Lancet*. Published online January 12, 2024. doi:10.1016/S0140-6736(23)02622-3

新型コロナのパンデミックから数年が経ち、患者や一般の人々は、推奨されるCOVID-19ワクチン接種にを受ける必要があるのか、あるいは新型コロナが今やほとんど心配されない感染症なのかと自問しているかもしれません。

今回、Steven Kerrたちの研究グループは、The Lancet誌で、英国のほぼ全人口の人口ベースの電子カルテの解析から得られた重要な新しい証拠を提示しました。

彼らの分析によると、2022年6月1日現在、COVID-19ワクチン接種の推奨回数（2～3回）よりも少ない割合の人口が、イングランドで45.8%、北アイルランドで49.8%、スコットランドで34.2%、ウェールズで32.8%となっています。

各国の結果を総合すると、推奨されるワクチン接種スケジュールが完全に実施されていれば、COVID-19による入院や死亡など、かなりの数の重症化を防ぐことができることがわかりました。

この研究では、40,393人の重症者特定されましたが、そのうちワクチン接種回数不足の人の人は14,156人でした。

これらすべての人々が完全にワクチン接種を受けた場合7,180人(重症者の17.8%)の重症化を防ぐことができたはずだと推計されました。

これらの知見は、新型コロナワクチン接種の主目的が、感染防止でなく、重症化を軽減し、合併症や死亡のリスクを減らすことであるという重要なメッセージを改めて強調しています。